

『OBだより』 世界の国からこんにちは 第10弾



国際社会コミュニケーション学科教授

大学院総合人間自然科学研究科人文社会科学専攻教授

(日本語教授法) 奥 村 訓 代

今回は、昨年春に大学院を修了と同時に韓国の大学で日本語教師として職に就いている大内彩さんを紹介します。彼女は、入学時から日本語教師になりたいという夢を6年間忘れることなく貫いた、意志の強い学生の1人です。本文中にもあります様に就活の始まった3年次には他人の就職活動や色々な話に、少なからず動搖したようですが、自分の道を信じ、自分らしさを追求することにより、立派な日本語教師として巢だってくれました。

韓国 白石大学 日本語担当外国人専任講師
大 内 彩

みなさん、こんにちは。私は愛媛県出身で、人文学部に入り、そのまま大学院総合人間自然科学研究科人文社会科学専攻を修了し、現在、韓国の天安（チョナム）にある白石大学で外国人専任講師として日本語教育に従事している、皆さんの先輩の一人である大内彩です。私が勤務する白石大学は、キリスト系の大学でソウルと天安にキャンパスを持ち、学部14、大学院7研究科及び短大を持ち、学生数が22000人の中堅大学で、ソウルまでKTX（韓国の新幹線）で30分と近く、生活にも便利な地域に位置し、平成22年から高知大学とも大学間交流協定を結び活発な交流活動を行っている大学の一つです。



「韓国で日本語を教えています。」というと「なぜ、韓国で？」という質問を日本に帰ってくる度に受けます。理由はいろいろありますが、一番の理由は学部生時代に韓国に留学したことで、韓国で働く不安や諸問題を無くすきっかけになった事でした。自分の目で見て、肌で感じ、自分の言葉でコミュニケーションをとることは、いろんな意味で自信と勇気に繋がりました。

将来、日本語教師になりたいと初めて思ったのは私が中学2年生の時です。そのために、副専攻で日本語教員養成課程が取得できる高知大学に進学しました。しかし、就職活動が目前に迫った3年生の頃、「本当に日本語教師になれるのか？日本語教師として生計を立てられるのか？」といった不安や悩みが出てきました。そんな時、ゼミ指導教員をしてくださっていた奥村先生に韓国への留学を薦めていただき、1年間交換留学として訪韓しました。

それまで、韓国語はもちろん、韓国がどんな国なのかも良く知らない状態でしたが、実際に留学してみると、予想外のことや未知のことの連続で、今まで経験したことのない驚きの日々であったことを覚えています。また、留学を通して色々日本のことを見聞かれましたが、それについて何も知らない自分にも気づかされる中で、日本語教師になり名誉挽回・汚名返上という気持ちが募るとともに、今までは日本人としての知識すら足りないと感じ、大学院進学を決意しました。^{注1} みなさんの中にも日本語教師って気になるけど、実際どうなんだろう？と悩んでいる人がいるかもしれません。私は日本語教師になって、心から「諦めなくて良かった！」と思っています。時々、「日本語教師には経済的、社会的な安定が他の仕事に比べて少ないかもしれない」という表現を耳にしたり、そう言う人を見たりしますが、それは日本語教師が簡単になると勘違いしている人の表現だと確信しています。もし、真剣に取り組み、努力したならきっと日本語教師で自活できると思います。女性が自活できる職種としても日本語教師は非常にパーセンテージの高い、恵まれた職場なのです。また、それ以上にやりがいのある職場です。どんな仕事も自分がやりがいを持ち、楽しむことができれば、それが一番幸せなことだと思います。今、在学中のみなさんにもきっとそのよう

な分かれ道の選択肢を選ぶ時が来ると思いますが、自信も持ち、責任を果たし、努力すれば、きっとどんな仕事も可能になると思います。ですから、日本語教師に興味のある方は、都市伝説的うわさに迷わされることなく、是非日本語教師にも挑戦してください。国内外を問わず、日本語学校や大学、その他日本語教育関係において「ライバルが高知大学の先輩・後輩！」なんて、そんな時代が近づいています。^{注2}

素晴らしい母校！

最後に皆さんに伝えたいことがあります。現在、過去最悪とも言われている日韓関係ですが、個人単位で見ると日本文化が好きという学生や社会人の方もたくさんいます。

しかし、一方で日本語を学習する人が韓国で激減しているという事実もあります。実際に韓国の大学の中で、日本語学科がなくなる、或いは他の言語と統合するといったことが起きています。政治的な問題だけでなく、日本経済の問題や他の言語の人気など、様々な原因が絡み、韓国での日本語教育界は厳しい状況に置かれています。しかし、それでも引き続き日本語を学びたいという学生は沢山います。

日本でも韓国でも、互いの国を悪く言う人々の中には、相手の国に一度も行ったことのない、その国に友達を一人も持たないという人に多いような気がします。これ

は、学生が私に話してくれたことですが、彼は日本語を勉強してまだ日が浅い頃、日本へ一人旅に出かけたそうです。その時、拙い日本語と英語で日本人に道を聞くと、「どの人もとても親切に教えてくれ、感動した。」と話してくれました。そして、韓国で日本を悪く言う人たちがいるけど、「実際に日本に行って日本人と関われば、決して日本を悪く言うことはできないはずだ。」と話してくれました。このようにお互いの国に実際に向き、相手を知ろうという人が増えれば日本と韓国の関係はもっと良くなっていくだろうと思います。私自身も、微弱ながら日本と韓国の友好の架け橋となれるよう、これからも頑張ります。



左端が、筆者です。

注1：海外で日本語教師になるためには、最低大学院を出ていることと、日本語教育について学んでいること、並びに最低1年以上の教職経験が必要です。また、その国の言語を知っているに越したことはないでしょう。私の場合は、留学経験があり、言葉や生活に不自由しない点と、大学院時代にこれまで奥村先生のご紹介で明徳義塾高校留学生コースでの教職経験を得ることができ、大学院修了と同時に白石大学に着任できました。

注2：昨年だけでも、海外に於いては金剛大学（韓国）、チャムス大学（中国）、ドンナムカレッジ（ベトナム）、また国内においては西沢学園（大阪）、関西語言学院（京都）、京都日本語センター（京都）等の採用人事において、高知大卒業生同士であったことも記憶に新しい。

幸せなことに大学院創設以来、毎年このように国内外で着実に高知大OBによる日語教師が増加中です。そしてその多くは、諸外国にて日本や高知を教えると同時に、優秀な学生を高知大学に留学生として送り返してくれているのです。

最近の日本語教育OB関係では、荒井さんと梶原君が同志社大学で専任と嘱託講師とし着任しています。また、JICAでブルガリアに派遣されていた吉金君も任務を終え、間もなく帰国してきます。彼はインドネシア、韓国、日本を経て4か国の大学で日本語教授に携わっていることになります。斎藤、新関両君は、ベトナムでの任務を終え京都の日本語学校並びに中国への派遣、また井上さんは中国の大学から3年間の勤務を終え、大阪の日本語学校で専任に着任しました。

OBの皆さん全員の近況報告も、どこかで一覧としてご紹介できればと考えています。（奥村）